

令和2年度第2回川越市地域福祉専門分科会書面会議開催結果について

表記会議について、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、書面会議を開催させていただきました。委員の皆様から貴重なご意見・ご提案をいただき、ありがとうございました。開催結果と提出された意見への対応・担当課の回答をまとめましたので送付します。

■開催概要

①開催方法

同分科会委員 18 名に資料及び回答票を郵送し、意見を聴取しました。

②回答票提出期限

令和2年7月13日（月）郵送から令和2年7月22日（水）まで。

期限までに回答票の提出のあった16名を書面会議に出席したとみなし、報酬の対象としました。

③意見総数

・回答提出者数：16名

議 題	意見等有り	意見等無し
1－1．「みんなで作る福祉のまち川越プラン」の進行管理について	7名	9名
1－2．次期計画素案（たたき台）について	7名	9名
2．その他	2名	14名

④提出された意見の概要と担当課の回答

※ 1つの項目に2つ以上の意見を書かれた方がいるため、下記の意見数は意見をいただいた委員数より多い場合があります。

1-1. 「みんなで作る福祉のまち川越プラン」の進行管理について

No.	ご意見	社会福祉協議会の回答
1	地区により取組項目の具体性やレベルが異なる中、評価の良し悪しだけでは実状がわからない。今後、共通の評価項目も持ちつつ（全体の中から良い取組を項目に置くなど）、地区別の評価を行うことを検討してはいかがか。	地区により取組状況が異なる中、各地区が本計画の目標に対して、どのような活動に既に取り組んでおり、また今後取り組むことを目指しているのかを整理し、共通の評価項目を設けることを検討していきます。
2	資料1の高階地区についての「CSW・地区担当の分析コメント」について、4行目「自治会長、民生委員と市社協地区担当で内容を検討・・・」の中に、地域包括支援センターも加えていただきたい。	地区だけでは課題解決が難しい場合もあり、包括支援センター等、関係機関との連携が重要と考えていますので、ご指摘のとおり対応します。
3	地区社協に共通する課題として、「(新たな・若い世代の)担い手不足」「活動の場の創出・場所の確保」「地域福祉に関心を持つ人と持たない人の意識の差」「個人情報取り扱い」などが挙げられると思う。地域福祉計画（施策、重点）に、これらの対策を盛り込む必要があると思う。	ご意見にある課題は、各地区社協に共通する課題であるとともに、市全体で取り組むべき課題でもあると考えます。計画策定にあたっては、有効な対策を講じることができるよう、具体的な施策や事業の展開について検討していきます。
4	資料1・2の22地区の評価の中で、日常のあいさつから始まり人と人のふれあいを通してつながりを大切に、「助け合える地域」	自治会加入者の伸び悩みや地域活動の担い手不足は、多くの地区に共通する重要な課題です。多くの人の参加を促すには、ご意見の

	<p>「安心してくらせる地域」を目標に掲げている地区が多くあった。全体評価として、目標達成に至らない地区だけでなく、課題の共通点は自治会加入者の伸び悩みや地域活動の担い手不足が目立つ。今後は人材の発掘や育成とともに、住民が参加できる魅力ある自治会活動を期待する。</p>	<p>ように、活動自体が住民にとって魅力的であることが大切です。各地区の創意工夫を情報共有できるよう地区社協等と連携していきます。</p>
5	<p>新型コロナウイルスの影響で、自主活動として運営している体操教室やいきいきサロン等の集い事業が再開されず、高齢者の在宅生活も気がかりである。また、コロナ禍での防災・防犯への取組が課題となる。先の見えない状況だが、一日でも早く交流の機会が持てることを願っている。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響による外出・交流機会の減少が高齢者等の生活に悪影響を及ぼしていることについては、全国的に問題となっており、懸念される所です。新しい生活様式を実践し、十分な感染対策を施した上で、対応できるよう尽力していきます。</p>
6	<p>大東地区では昨年8月に大東身体障害者福祉会とボランティア団体の協力により、地域の障害者、高齢者、健常者のために卓球バレーのデモンストレーションを実施し、地域会議の福祉部会の方に参加していただく行事にできた。新型コロナウイルスのことはあるが、大東地区の行事として検討することとなり、これから話し合いで内容等を決める予定である。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しながら、十分な対策を施した上で、地域の催し物等を実施できるように協力していきます。</p>
7	<p>前回評価から今回評価の数値がアップした取組については、どのような改善努力によって得られたものか、また数値が下がったも</p>	<p>今回評価が上がった地区は、自治会だけでなく様々な団体等が連携し、地区の実情を把握し、協議を重ね、自分たちにできる取組</p>

	<p>のは何が原因でダウンしたのか、興味がある。自分も自治会活動で苦慮しているので参考にしたい。それぞれの現場で悩み、問題意識を持ち続けることが、進化・発展につながっていくのだと思う。</p>	<p>(既存の事業を活用) から率先して始めたことなどが評価のアップにつながっています。</p> <p>一方、評価の下がった地区では、日頃から地区の課題や既存の事業等について協議し合う場が少ないため、情報共有ができず、課題があっても解決に向けた取組が進まない状況が伺えます。また、新型コロナウイルス感染症の影響による事業規模の縮小や中止となったことも要因の1つとなった地区も多くみられます。</p> <p>今後、各地区の取組の成果と課題を共有する機会として、地区社協や民児協等の代表者が集まる機会等を設け、お互いの取組や課題を共有できるよう支援していきます。</p>
8	<p>地区別福祉プランの課題シートの中に、表現の誤りや誤字・脱字等がある。</p>	<p>ご指摘の点については対応しました。</p>

1 - 2. 次期計画骨子案について

No.	ご意見	福祉推進課の回答
1	<p>基本理念について、「3計画で一体性のあるもの」で共通した基本理念にするにあたり、他の計画の基本理念にもふさわしいかについて、他の計画策定の審議状況を見ながら調整していただきたい。</p>	<p>地域福祉計画は他の福祉計画の上位計画に位置づけられるものであり、基本理念をはじめ計画の内容全般にわたって、他の計画との整合性に留意しながら策定していきます。</p>
2	<p>市全体の統計は確認していないが、少なくとも高階圏域の高齢者世帯では、独居世帯の割合が最も</p>	<p>高齢独居世帯の見守りは、地域における課題の1つであり、計画の中に取組を盛り込んでいきます。</p>

	<p>多くなっており、この独居世帯、とりわけ要援護の独居世帯の見守りが大きな課題となっている。孤立・孤独死をどう防止するかが課題だと思う。高齢独居世帯は市全体でも今後も増加する傾向にあると思うので、次期計画の大きな課題の1つになると思う。</p>	<p>ご近所同士の緩やかな見守りから、民生委員、福祉協力員等の日常的な見守り、相談機関等による専門的な見守りまで、重層的な見守り体制の構築・充実に努めていきます。</p>
3	<p>第3章5「地域福祉推進の主体と役割」の川越市の役割について、資料では主に包括的支援体制の相談支援・参加支援を中心に記述されていると思う。施策・重点の部分に地域づくりのことが記述されるのだと思うが、ここにも地域づくりに向けた支援（住民同士の関係性の育成・そのための交流の場や居場所の確保、交流や参加のコーディネート）を担うことを書き加えると良いのではないか。</p>	<p>地域づくりに向けた支援は、重点施策に位置付ける重層的支援体制整備事業の事業内容の1つであり、市が果たすべき重要な役割であることから、ご指摘の箇所については、追記する方向で検討します。</p>
4	<p>資料5の基本理念「笑顔で迎える出会いがつながり 絆が深まるまち 川越」は優しさや思いやりが伝わるとともに、川越らしさを感じる。次期「地区別福祉プラン」が各地区で策定されるが、コロナ禍でもあり、これまで以上に人と人のつながりを大切にし、助け合いながら住み慣れた地域・川越で安心して暮らせることを目標とする地区が多くなるのではないかと予想する。高齢者だけでなく、地域の方々の孤立やひきこもりの対応が、何か所かの部分から</p>	<p>基本理念は、団塊のジュニア世代が65歳以上となる2040年を見据え、他の福祉計画にも通ずるものとして提案したところです。次期「地区別福祉プラン」は、地区ごとに基本理念に基づき、人とのつながりや助け合いを大切にしたものになるよう、市社協の地区担当者（CSW）の支援のもと策定を進めています。</p>

	読み取れる。	
5	旧市内以外の地区の方の高齢化が進んでいる。子どもたちが独立して他に移り住み、高齢化がますます進んで、地区の行事にも参加できないことが、地区自体を弱体化していると思う。頑張っているところもあるので、お互いの交流を図り解決策を模索していく必要があると思う。	地域活動の活動者や参加者の高齢化は多くの地区に共通する課題であり、閉じこもりがちな高齢者や若い世代などの参加促進を図る必要があると考えています。独自の取組をしている地区も多いので、地区間の交流を促進し、活動の活性化につなげていくことも大切だと考えています。
6	第1章1(1)「背景・趣旨」について、新型コロナウイルス感染症に伴う新たな社会課題が発生し、いつまで続くことかわからない。そのため、日常生活に困難を抱える子ども及びその家庭や経済的困難に陥った人に対する支援等が必要ではないか。	新型コロナウイルス感染症は、特に様々な生活上の困難を抱える方たちに深刻な影響を及ぼしていると考えられます。今後、今回の流行がもたらした新たな社会課題について分析を行い、各施策の中で対応を検討していきます。
7	次期計画素案(たたき台)の中に、表現の誤りや誤字・脱字等がある。	ご指摘の箇所につきましては、内容を精査した上で必要に応じて適宜修正等を加えます。

2. その他

No.	ご意見	福祉推進課の回答
1	街づくりの理想は果てしなく、あきらめず地道な努力でなし得られるものと思うが、頑張って皆で素晴らしい街づくりを実現していきたい。	まちづくりは行政や社協の力だけでできるものではなく、様々な関係者・関係団体をはじめ、多くの市民の主体的な参加があって初めてなし得るものです。福祉の面においては、次期計画を通じて一歩でも理想に近づければと考えています。
2	I C T を活用した地域づくりや相談支援の取組があればと思う。	I C T の活用は、主に啓発や周知といった面に取り入れています

<p>今回は未定稿となっている内容の中で触れても良いのかなと思う。愛称「みんなでつくる福祉のまち川越プラン」はやさしい感じで伝わり、とてもいいと思っている。愛称の略称的なものとして、「まちプラ」「みんプラ」なども公ではなくても面白いかと思う。</p>	<p>が、地域づくり等における活用については今後検討していきます。計画の愛称については、地域福祉計画と地域福祉活動計画を引き続き一体的に策定すること、少しでも多くの市民や関係者に親しみを持ってもらいたいことから、次期計画にも引き継ぎます。</p>
---	---